

帯広畜産大学原虫病研究センター共同研究報告書

令和3年5月28日

採択番号	2020-共同-6		
研究部門	診断治療研究部門	原虫病研究センター 内共同研究担当教員	菅沼 啓輔
研究課題名	Deciphering trypanosome parasite tissue tropism and sequestration		
研究代表者	(ふりがな) 氏 名	所属部局等・職名	
	Jack Sunter	Oxford Brookes University, David Fell Research Fellow	
研究分担者			
	すがぬま けいすけ 菅沼 啓輔	帯広畜産大学原虫病研究センター・先端予防治療学分野・助教	
研究期間	2020年4月1日～2021年3月31日		
目的・趣旨	<p><i>Trypanosoma congolense</i> を対象として、トリパノソーマ原虫の哺乳類およびベクター組織移行動態の解析を目的とする。本研究では <i>T. congolense</i> の全ステージ培養系を有する原虫研先端予防治療学分野に、研究代表者が遺伝子組換原トリパノソーマ作製用プラスミドの構築と提供を行う。研究分担者は分与プラスミドをもちいた遺伝子組換 <i>T. congolense</i> の樹立を目指す。</p>		
研究経過の概要	<p>COVID-19 の蔓延により研究代表者の研究活動が困難であった。研究代表者の研究再開および遺伝子組換トリパノソーマ作製用プラスミド提供後のすみやかな実験開始にそなえ、研究分担者はトリパノソーマの維持に努めた。</p>		
研究成果の概要	<p>関連研究の成果として、<i>T. congolense</i> での遺伝子組換え原虫の作製を目指して、候補遺伝子を検討した。結果、同原虫で特異的に発現する数種類の遺伝子を特定することが出来た。現在、それらの中から、遺伝子組換原虫作製の標的とする遺伝子の特定を進め、同時に使用するプラスミドコンストラクトの設計も予定している。</p>		
研究成果の発表	特になし。		